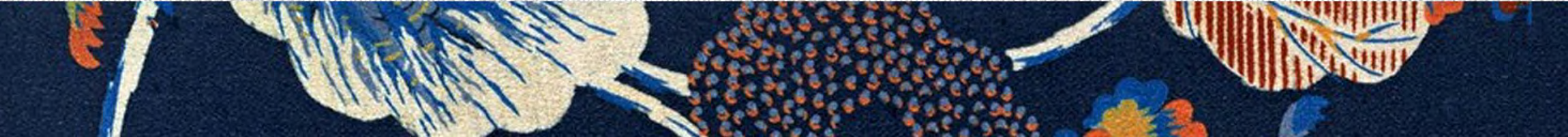




2

元素の民族

火と水





火の民族 彝族 (YI)



火の民族 彝族（YI）

彝族は、中国で6番目に多い少数民族であり、民族固有の言語として彝語を使用しています。彝族は主に雲南省、四川省、貴州省、広西チワン族自治区の高原や沿岸の丘陵地帯に分布しています。



火の

彝族

イ語には
東南部方
方言があ

イ族の文
されたと
は約1万字
のは約10
味を表し
同じ文字



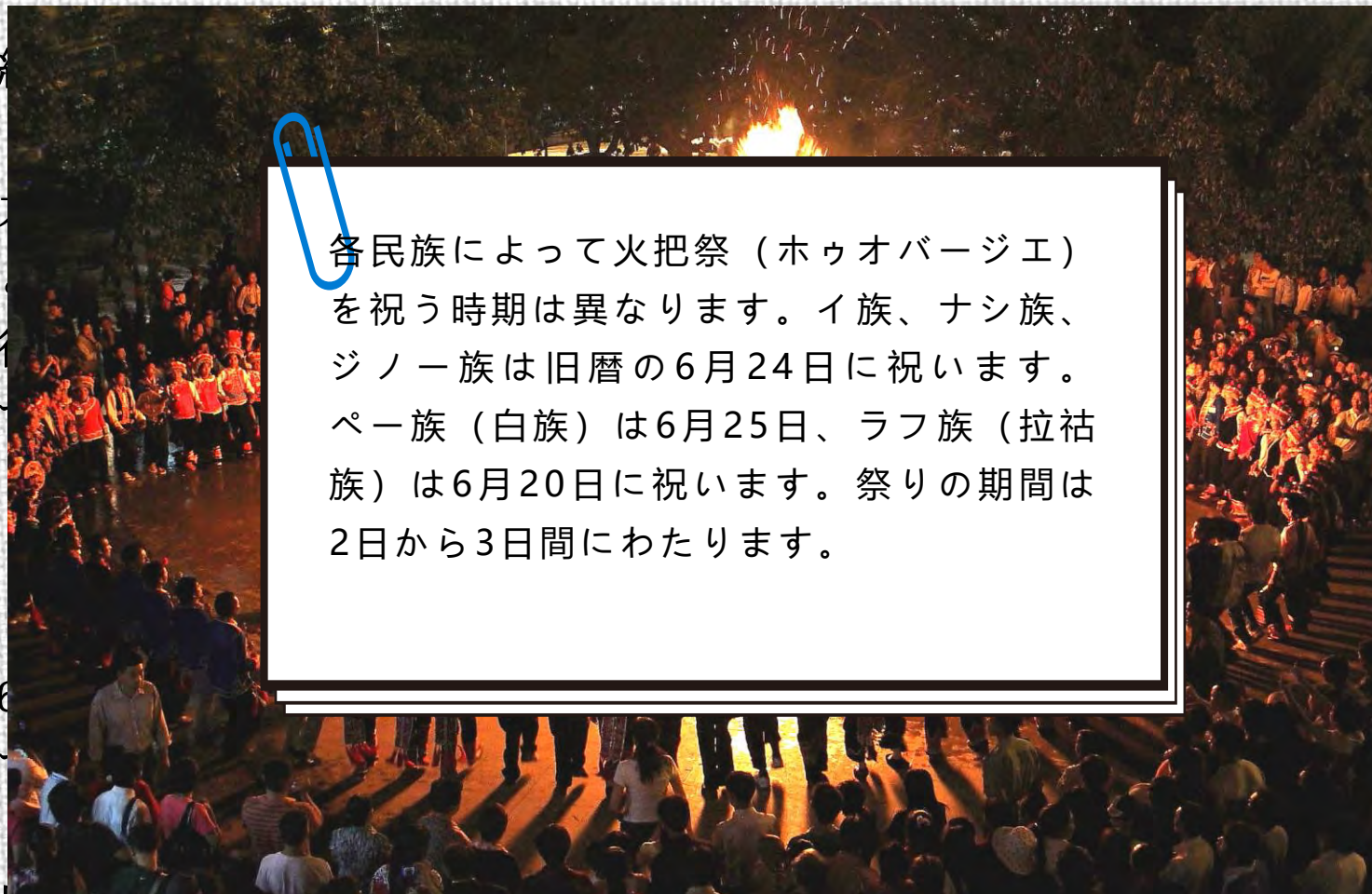
火の民族 彝族（YI）

火把祭（ホウオバージエ）は彝族の伝統祭です。

昔々、天には「スジェ・アビ」という神がいました。二人とも山を引き抜くほど力強い母親から「スジェ・アビがさっき出て行きました。スジェ・アビを追いかけ、力比べとして命を落としてしまいました。」

この出来事を知った天の神「エンティ」は怒りを荒らししました。アティ・ラバは旧暦6月24日、人々を率いてそれを燃やし、畑へ行きました。

それ以来、彝族の人々はこの日を「火把祭（ホウオバージエ）」として祝いようになったのです。



各民族によって火把祭（ホウオバージエ）を祝う時期は異なります。彝族、ナシ族、ジノ一族は旧暦の6月24日に祝います。ペー族（白族）は6月25日、ラフ族（拉祜族）は6月20日に祝います。祭りの期間は2日から3日間にわたります。



水の民族 傣族（タイ）



水の民族 傣族（タイ）



タイ族（傣族）は、中国、インド、ベトナム、カンボジア、タイなどの国々に分布しています。中国国内では主に雲南省の西双版纳タイ族自治州、徳宏タイ族チンポー族自治州、および耿馬（ゴンマ）・孟連（モンリェン）の二つの自治県に集中して居住しています。

すでに西暦1世紀の中国の漢文史書には、タイ族の祖先に関する記録が見られます。雲南はタイ・ラオ系民族全体の発祥地とされており、西双版纳でのタイ族の生活の歴史は、タイ王国におけるタイ族よりも古いものです。両者は同一民族と見なすこともでき、文化や信仰など多くの面で非常に似通っていますが、一部に違いもあります。

両者の言語は同じ語族に属していますが、相互には通じません。ただし、ミャンマーのシャン族の影響を受けたタイ北部の一部のタイ族の言葉は、傣族の言語により近く、相互に理解可能な場合もあります。

。

水の民族 傣族（タイ族）

タイ族（傣族）は、クジャを水と豊かさを象徴としています。民間伝承が豊かで多彩です。タイ族の生活のことを好み、清潔を愛し、美しい、特に女性は髪を洗うことが大好きで、「水の民族」と称えられています。

かつてタイ族は広く上座部仏教と原始宗教を信仰しており、生活や文化に深く根ざしていました。



水の民族 傣族（タイ）

潑水節（ポースイジエ、別名：ソンクラン祭 / 宋干節）は、中国のタイ族（傣族）、アチャン族（阿昌族）、ブラン族（布朗族）、ワ族（佯族）、ドアン族（徳昂族）などの少数民族、そして東南アジアの一部民族にとっての新年を祝う伝統的な祭りです。特に傣族にとっては一年で最も盛大な伝統行事です。

中国の傣族では、傣暦の6月または7月（清明節の約10日後）に開催されます。民族によって祝う日は1～2日異なりますが、いずれも西暦の4月8日から22日の間に行われます。

潑水節では、水をたくさんかけられた人ほどその年にもっとも幸運になるとされており、人々は水をかけ合うことで、お互いの幸福と平安を願う気持ちを表しています。

